

## 地域医療介護総合確保基金による病床機能分化連携施設設備整備費補助金について（米沢市立病院）

### ○ 病床機能分化連携施設設備整備費補助金について

地域医療構想の実現に向けた病床機能の分化・連携のため、病院内や地域医療連携推進法人を含む同一法人の病院間において、急性期病床から回復期病床への病床転換、急性期病床を適正化し回復期機能を充実するための医学的リハビリテーションに必要な医療機器等の施設整備費に対する補助金

### ○ 米沢市立病院地域包括ケア病棟増床の必要性等について

米沢市立病院（以下「市立病院」という。）では、2023年の新病院建設に向けて、三友堂病院との機能分化・医療連携により、急性期医療を市立病院が担い、回復期医療を三友堂病院が担うべく両病院間で協議を進めています。

新病院建設については、1月29日（火）から「米沢市立病院新病院建設基本計画（案）」に対するパブリック・コメントを実施し、3月までに同計画を策定する予定となっています。

一方で、現在の市立病院の7対1病棟においては、4月から12月までの在院日数が昨年度と比較して2日程度短縮はしているものの、高齢者が多い地域性などから、そもそも長期になってしまう患者のほかに、在宅復帰に向けたリハビリテーションや退院調整に期間を要する患者が多く、4月から10月までのDPC入院期間Ⅲや出来高の患者の割合が40%超となっている現状があります。このような状況に対応し、回復期の患者の受け皿になる病床を確保するために、地域包括ケア病棟を16床増床して54床とし、併せて対応する医療機器を整備することで、患者のニーズに答えていきたいと考えています。

また、地域全体で見た場合、急性期病床を削減し、回復期病床を充実させる必要があることから、今回の病床機能の見直しは、それに沿った病床機能の見直しでもあると考えています。

以上、新市立病院開設までの医療提供体制に係る暫定的な措置ではありますが、同補助金を活用し必要な医療機器を整備することにより、増床した地域包括ケア病棟に係る医療機能をより充実させることを目指すものです。

### ○ 基金を活用した回復期医療の充実に係る医療機器整備事業

整備予定機器：コードレスバイク、電気刺激装置、ゲイトイノベーション、  
ハンドベルトダイナモメーター等

整備予定機器総額：約1千万円

補助予定金額：約500万円